

福島県病害虫防除所より5月28日付けで「令和2年度病害虫発生予察情報 注意報第3号」が発表されました。なし黒星病の果そう基部病斑が平年より多く発生しています。

なし黒星病は、開花直前から開花後2週間までの降雨日が多いと、感染が助長されます。果樹研究所では5月7日に果そう葉での初発を確認しており、この感染は4月18日から20日にかけての降雨によると考えられます。また、5月18～23日の各観測地点の降水量合計は、福島が53mm、郡山が104mm、相馬が149mmとかなり多く（気象庁発表）、今後の発生が懸念される状況にあります。

果そう基部病斑、発病葉、発病果は、葉や果実への感染源となるため、今後、感染が拡大しないように防除対策を徹底しましょう。

1 なし黒星病の発生状況

5月下旬の調査では、果そう基部病斑の発生ほ場割合は平年より高く、特に中通りで高い傾向があり、県内全域で幼果や果そう葉での発病が確認されています（図1）。

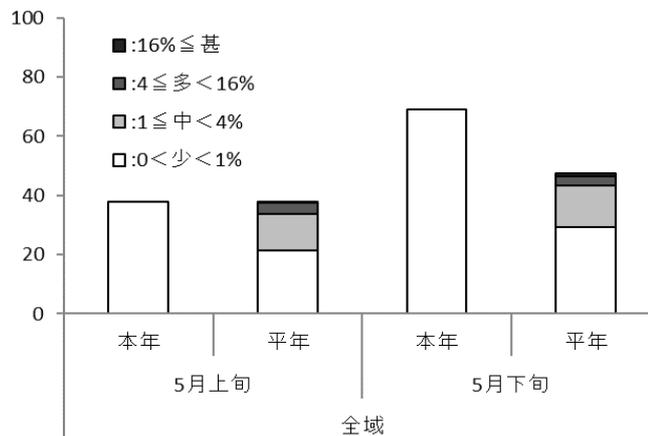


図1 なし黒星病果そう基部病斑の発生状況（5月上旬、下旬）
調査地点：中通り19か所、浜通り10か所

2 防除対策

東北地方1か月予報（仙台管区气象台 令和2年5月28日発表）では、向こう1か月の降水量は平年並の確率が40%であり、期間の後半は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予測され、なし黒星病の感染拡大が懸念されます。

(1) 耕種的防除

- ・園内をよく見回り、果そう基部病斑（図2）、発病葉（図3）、発病果（図4）の早期発見に努め、早期除去を徹底してください。果そう基部病斑は、中・長果枝の花芽の鱗片が脱落せずに付着しているため、見つけしだい除去しましょう。
- ・発病部位は、葉や果実への感染源となるため、除去後は園外に持ち出し、適切に処分してください。
- ・主枝や亜主枝上の背面枝や下芽をせん除したり、不定芽新梢が混み合っている部位の間引きを行うなどして薬液が十分かかるようにしましょう。

(2) 薬剤防除

- ・今後、梅雨に入り、降雨の多い時期となるため、薬剤散布は散布間隔が空きすぎないように注意してください。発生が多い園地では7日間隔で防除しましょう。
- ・降雨が予想される場合は、降雨前の予防散布を心がけ、薬剤は散布むらのないよう十分量散布しましょう。
- ・使用する薬剤は、地域の防除暦等を参照し、薬剤の使用濃度、収穫前日数に十分注意してください。



図2 なし黒星病の果そう基部病斑



図3 なし黒星病の発病葉



図4 なし黒星病の発病果

写真提供：福島県農業総合センター果樹研究所

果そう基部病斑、発病葉、発病果の除去と薬剤散布
を徹底し、二次感染を防ぎましょう！
園地を何度も見回り、粘り強く徹底して除去しましょう。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、参照してください。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬の散布は使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344
(以下の URL より他の農業技術情報等をご覧ください。)

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>